

くま小通信

第7号 令和4年6月14日
 名古屋市立熊の前小学校
 名古屋市緑区亀が洞一丁目901番地
 TEL: 052-878-1600
<http://www.kumanomae-e.nagoya-c.ed.jp>

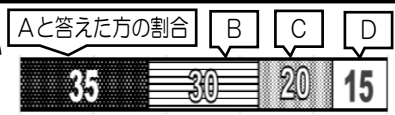


各記事と「学校教育目標」(第1号参照)の関連を、次のように文末に示しています。 (2) 思いやりの心・社会の一員としての自覚を備えた子の育成→【2 思いやり・社会性】
 (1) 基礎基本を身に付け、自ら学ぶ力を備えた子の育成→【1 自ら学ぶ力】 (3) 生涯にわたって健康に過ごすための心身を備えた子の育成→【3 心身の健康】

熊の前スポーツデー アンケート結果

5月28日(土)に行われた「熊の前スポーツデー」のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。結果についてお知らせします。

【グラフの見方】
 アンケート結果を、%で示しています(小数点以下は四捨五入)。左から、A、B、C、Dの順に並んでいます。



質問1	A:100%	B:0%	C:0%
「熊の前スポーツデー」の開催について	開催してよかった	感染症の状況等を踏まえると、開催すべきではなかった	その他



＜いただいた主なご意見＞

- コロナ禍が続く中での開催、色々と策を練って開催してくれてよかった。
- コロナ禍ではあったが、無くならず開催されてよかった。
- 感染対策をしながら開催できてよかった。
- 子どもたちの成長を見る機会があったことに感謝したい。

質問2	A:94%	B:5%	C:1%
土曜日の開催について	よかった	平日がよかった	その他



＜いただいた主なご意見＞

- 土曜日開催のため、参観がしやすかった。
- 分散であれば、平日の開催でもよいと思った。

質問3	A:77%	B:22%	C:1%	D:0%
各学年の種目数と内容は適切であった。	そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまり思わない	思わない



＜いただいた主なご意見＞

- 今年は表現の種目もあり、年々アップデートされていて、うれしく思った。応援団、応援合戦もとてもよかった。
- ひねりの効いた演目で面白かった。
- 今年はダンスもあって、各学年で見応えがあった短期間でよくここまで仕上げられたことに感心した。
- 表現の時間が短かったので、もう少し長い時間見たかった。

質問4	A:83%	B:16%	C:1%	D:0%
密集を避けるため、保護者の参観を分散したことは適切だった。	そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまり思わない	思わない



＜いただいた主なご意見＞

- 保護者が密にならずにすみ、とても見やすくてよかった。
- 分散したことで、場所取りなどをしなくてもよく、気軽に参観できた。
- 祖父母の参観が可能なことを、もう少し早くお知らせしてほしい。

質問5	A:85%	B:13%	C:2%	D:1%
お子さんは、「熊の前スポーツデー」を楽しみにしていた。	そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまり思わない	思わない



＜いただいた主なご意見＞

- とても張り切って、家でも踊りの練習をしたり、応援合戦の歌を歌っていたりと、楽しみにしていた。
- 家でも毎日のように表現の練習をし、応援団にも気合十分だった。前日の夜もどきどきして眠れないくらい楽しみだったようだ。

質問6	A:29%	B:67%	C:0%	D:4%
来年度以降の体育的行事のあり方について	全校での運動会を開催してほしい	スポーツデーのような形でよい	開催しなくてよい	その他

＜いただいた主なご意見＞

- A：他学年の競技を見ることで、さらに一体感が生まれ、下学年の子は上学年の子に対して憧れの気持ちをもつことができると思う。
- B：分散での開催だと、感染症対策と同時に、熱中症対策にもなる。保護者の参観もしやすい。
- D：児童は全校で行い、保護者の参観を分散にするとよい。



【その他、ご意見ご要望等】

- 事前に演技の位置が分かるお手紙をもらったのがありがたかった。
- 昨年に引き続き、全校児童が赤白に分かれて実施するのは、一体感があってよいと思った。
- 昨年に引き続き、他学年の競技を見ることができ、子どもがとても喜んでいました。
- 保護者の人数制限がなかったため、初めて祖父母が学校行事を見学することができて、とても喜んでいました。
- 運動場に出ていない児童が、テレビで参観できると、より一体感が増すのではないかと感じた。
- 風が強かったため、競技中もマスク着用の必要はなかったのではないかと感じた。
- 三脚を立てたり、日傘を差したりする保護者がいて、参観の妨げになった。細かいルールを示してほしい。
- 参観後、運動場に留まって次学年の競技を参観している保護者がいた。アナウンスを徹底してほしい。
- 卒業生の参観も認めてほしい。

いただいたご意見を基に、よりよい体育的行事を

今年度は、昨年度いただいたご意見を基に、「開会式」「表現」を新設し、特に「表現」については、多くの保護者の皆様から高くご評価いただきました。今回のアンケートでも、多くの貴重なご意見をいただくことができました。どれも温かく、示唆に富んだものばかりでした。その全てにお応えすることはできませんが、子どもたちにとってより価値のある行事にするための原動力として、今後に生かしていきたいと思っております。ここでは、お答えできる範囲で、皆様からのご意見に回答していきます。

1点目は、マスクの着用についてです。マスクの運用は、市教委からのガイドラインに沿った形で行っています。熱中症対策とのバランスが難しいところですが、現状では、「運動中は原則外す」「運動中でなくても十分な身体的距離(2m程度)が確保できる場合は外す(マスクを外す際は会話は禁止)」という基準を設けています。ご理解ください。

2点目は、参観の制限についてです。感染症対策と不審者対策の両面から、本校では「保護者証」または「臨時保護者証」の着用がない方の来校は認めていません。今回は、昨年度の「保護者2名」から、「保護者であれば人数制限は設けない」と緩和した点について、多くの保護者の方からご評価いただきました。関連して、「『人数制限をしない』というアナウンスがもう少し早くほしかった」というご意見がありました。感染状況によって判断の時期が不確定ですが、可能な限り迅速にお知らせできるように努力します。また、「卒業生の来校を認めてほしい」という声もありました。不審者対策や生徒指導の面での心配はありますが、弟妹の頑張る姿を卒業生の兄姉にも見てほしいという気持ちには共感します。来年度以降、対応を検討します。

3点目は、ルールやマナーの徹底についてです。「自分の子どもの学年以外を参観していた」「卒業生が見に来ていた」など、「ルール違反」に関する声をいただきました。未確認ではありますが、ほとんどの方がルールを守っていただいている中で、それを反故にされている方がいるとすれば、残念でなりません。学校では、「決められたルールの中で、一人一人が思うままに行動したり、工夫したりすることが“自由”だよ」と教えています。大人がルールを逸脱する姿を見れば、子どもたちは「自由」の意味をはき違えてしまいます。みんなが楽しく過ごすためには、ルールやマナーを一人一人が守ることが大切です。ルールに納得できない部分がある場合は、事前にご質問いただいたり、事後アンケートでご意見をお寄せいただいたりすれば、校内で検討しますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。また、日傘や三脚の使用について、アナウンスができておらず、不快な思いをされた方がいらしたようです。今後、案内に注意点として記載していきたいと考えます。ただ、本来、それらはルールで禁止するべきものではなく、各自がマナーとして気を付けるべきことであるとも考えます。また、日焼けが重大な健康被害をもたらす体質の方などが、場所を選んで日傘をさすことは、制限できることでもありません。「自分の行動が他者に不快な思いをさせていないか、迷惑を掛けていないか」という思いやりの気持ちをもって行動することが、他者と共に社会生活を送る上で大切なことです。子どもたちの規範意識を高めるために、言葉だけでなく実際の行動で範を示していくことが、我々大人の役割です。教職員一同、そのような意識をもって教育活動にあたりますので、保護者の皆様も、ご協力をお願いいたします。

今回いただいた皆様からのご要望を真摯に受け止め、可能な範囲で、最大限の改善を図っていきたく考えています。今後とも、本校教育へのご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

価値は自分次第

保護者の皆様からいただいたアンケートを読んで、何度も心を動かされました。特に印象に残った記述(6年保護者)をご紹介します。

6年間憧れ続けた応援団長になれず、当日までずっと悔しがってました。騎馬戦では帽子を取られてしまい席に戻ると泣いていました。こっぴどい悔しい気持ちがあるが今後の成長につながるべくくれるとよいなと思います。

このお子さんの悔しい思い、体育的行事にかける強い思いを想像すると、目頭が熱くなりました。それと同時に、最後の一文に、保護者の方の子を育てる「意識の高さに敬服の念をもちました。この方は、お子さんの味わった悔しい経験を、失敗ではなく、成長のための糧」と捉えています。きっと、家庭でそのような声を掛けてもらったお子さんは、悔しさを逆境を力に変えて、力強く成長を続ける人に育つだろうと想像します。

物事に客観的な価値はなく、自分の意味付け次第でその価値はプラスにもマイナスにもなります。今後、子どもたちは、思い通りの結果が出ないことも、数多く経験すると思えます。そんなときに、失敗したから自分だけだ」と考えるか、課題が見付かったから次はここを改善しよう」と考えるのかで、人生の豊かさや成長は大きく異なります。子どもたちには、子どもであるうちに、物事を前向きに捉え、価値付けることができる力を育ててほしいと考えます。

物事の価値は自分次第。保護者アンケートへの皆様の記述から、改めて学ぶことになりました。保護者と学校が一体となって、前向きな「価値付け」ができるくまっ子育てていきましょう。

【号数の訂正】 くま小通信の号数に誤りがありました。以下のように訂正させていただきます。

5月25日発行：【誤】第6号→【正】第5号

6月2日発行：【誤】第7号→【正】第6号